

や やるぞ～ ま まけないぞ～ が がんばろうぜ～ た 楽しい学校になるように

目の前の道を進み 山を越えていけ！ すべてはその道やその山が教えてくれる！！

＜令和4年4月8日(金) 令和4年度 入学式 校長式辞＞

春の喜びを告げる花が、可憐な梅から絢爛たる桜に替わり始めています。同時に思い出多き令和三年度が静かに幕を閉じた瞬間、夢と希望に満ちた令和四年度が幕を開けました。

また春が巡ってきました。118名の新入生の皆さん、あらためまして入学おめでとうございます。

今、この時この場に臨む君たちの心の中を覗いてみると、おそらく、うれしくてうれしくてたまらないというよりも、緊張、不安、とまどいの方がとてつもなく大きいことでしょう。新しい世界・未知な環境に身を置くスタートとは、いつでもだれでもそういうものだと思います。その未知なる世界に対峙する緊張感が、こちらにもひしひしと伝ってくることで、君たちの姿がとても清々しく神々しくさえ思えて輝いて見えます。うれしい限りです。山潟中学校を代表して、君たちを心から歓迎します。

今年度も、コロナ前のような形での入学式とはいきませんでした。皆さんの晴れやかで希望に満ちた表情に心が洗われる思いです。

さて、皆さんは、今大きな大きな3つのスタートラインに立っています。

一つ目のスタートラインとは、小学校から続く義務教育九年間の後半戦三年間のスタートライン。二つ目のスタートラインとは、高度情報化社会が加速する中、タブレットの有効活用等GIGAスクールを軌道に乗せる本格的な新時代のスタートライン。そして三つ目のスタートラインとは、大人になる段階のスタートラインです。

では、スタートラインが今ここであるとするならば、ゴールは一体どこにあるのでしょうか。実は人生にゴールなどはありません。人生は果てしなく続く旅のようなものだと思います。でも、その人生という旅を豊かなものに自分や集団を成長させるために、私たちが当面めざすべき目標とするゴールは、状況に応じて当然適宜設定する必要があります。

今、中学校生活の三つのスタートラインに立った君たちのゴールは、ちょうど今から三年後の卒業式の自分です。

そのゴールに向かって、君たちは、この三年間の自分が進むべき道、自分たちが進んでいかなければならない道程を、どのように思い描いているのでしょうか。想像してみてください。

雲一つない晴天の下、完璧に舗装されていて、ひたすらまっすぐ伸びる道。何の危険物も行く手を阻む障害物もなく、周囲の景色もほぼ変わらない、きれいで平坦な道を思い描いているのでしょうか。いいえ、君たちの前にそういう道は待ち受けていないはず。

君たちの前に現れる道は、大きく曲がりくねっていたり、でこぼこだったり、途中落石やがけ崩れで道がふさがれていたり、川にかかる橋が崩落していたり、時には、峠道であ

ったり、木々で生い茂った獣道へと変わる場合もあります。また、進みを重ねるうちに周囲の景色も様々な表情を見せ、炎天下の日も、暴風雨や雷の日もあるかもしれません。

そういった困難な道のりを、当たり前のことと受け止め、たくましく誠実に突き進んでほしいのです。歩みを進める中で、自分が学んだことを生かし、周囲の人間と協力し合い・支え合い・知恵を出し合い、どんな困難や課題をも克服しようとする不屈の精神。それが皆さんに臨む、我が道を進む姿なのです。

でも安心してください。君たちは一人ではないのです。君たちの道標となって、常に後ろ姿を見せながら先導してくれる頼もしい多くの先輩方がいます。つらいことも苦しいことも共に悩み考え、心に寄り添ってくれる先生方がいます。君たちをいつも温かく見守り続けてくれる家族や地域の方がたくさんいるのです。

私は、君たちのこの中学校での三年間、そしてこれからの未来がバラ色の人生であると確約することはしません。私は預言者ではありませんので、必ず明るい未来が待ち受けているなどと断言はできません。

断言できるとすれば、君たちが、自らの手で明るい未来を切り拓ける存在であること、自分たちの努力次第ですばらしい未来を創造できる可能性を秘めていること、厳しい道のりや高い壁は、それを乗り越えそれを乗り越えられる人間や集団の前にしか現れないということだけなのです。

ですから、このコロナ時代に生きる君たちを、私は決してかわいそうだななど思っていません。だれもが経験したことのない予測困難な時代、自らが学んだことを生かし、自分以外の人間と協力・連携し、知恵とアイデアを創出し、粘り強く立ち向かうことは当たり前のことであり、そういう状況に最も多感なこの時期に直面し、その中で辛抱強く生きていくことは、自分たちは「コロナ世代」とであると、他のどんな世代にも胸を張れる誇り高い生き様であると考えます。

さて、ご臨席の保護者の皆様、これまでお子様を手塩にかけて育て、晴れの日を迎えた今日、感慨もひとしおかと拝察いたします。本日は本当におめでとうございませう。

おそらく、これからの三年間は、ご家族の皆さんにとっても、あつという間に経過し、あつと驚くくらい短く感じる三年間となるはずです。一方、子ども達にとっては、その道のりたるや、人生で最も濃厚な瞬間瞬間であり、子どもから大人に大きく成長する人生で最も醍醐味のあるかけがえのない期間でもあります。

今日からは、家族の皆さんよりも私ども教職員の方が、お子さまと一緒に過ごす時間が多くなると思いますが、本日、新入生 118 名との新たなる出会いを心から喜んでおります。

3年間、責任をもってお預かりさせていただき、大事に育ててまいります。どうぞ宜しくお願いします。

そして、最後に。山瀉中学校の在校生、そして私たち先生方は、君たちと同じ時間と空間を共有することを大きな喜びとし、君たちと、喜怒哀楽を共有すること、君たちの大いなる成長に間近で関われることに最大のやりがいと生きがいを感じながら、全力で皆さんを支えていきます。

君たちには、周囲のだれからも愛され励まされ応援される、そういう人間になってほしいものと強く願っています。

この学び舎を巣立っていく三年後のその日その時この場所で、自分は、山瀉中学校の生徒で本当に良かった、この山瀉中学校の仲間や先生方に出会えて最高だった、この地域に住んでいて良かった、そしてお父さんお母さんの子で本当に良かった、と心の底から振り返ることができること。それが私たち全員がめざす、真のゴールなのです。

山瀉中学校第四十二代入学生諸君、入学本当におめでとう。